

# 神経症的な登校拒否に対する理解と指導方法

～担任ができる予知・予防・援助を中心として～

## 目 次

I	テーマ設定理由	107
II	研究の仮説	108
III	研究内容	108
1	登校拒否の概観	108
(1)	登校拒否児童・生徒の出現年代	108
(2)	登校拒否の定義	109
(3)	登校拒否のタイプ・分類・特徴	110
(4)	登校拒否の症状	111
2	登校拒否の原因	113
(1)	社会的要因 (2)学校側の要因 (3)家庭側の要因 (4)本人の性格要因	113
3	登校拒否の早期発見(身近なものの中から)	114
(1)	過去の資料に目を通す	114
(2)	保護者からの情報を得る	114
(3)	出席状況に注目する	115
(4)	養護教諭からの情報	115
(5)	生徒の発するサインの察知	116
4	潜在的登校拒否児童・生徒の予知	116
(1)	潜在的登校拒否児童・生徒の理解と把握	116
(2)	チェックリストによる潜在的登校拒否児童・生徒の予知	117
5	潜在的登校拒否児童・生徒の予防(援助)	119
(1)	エゴグラムの活用	119
(2)	典型的なエゴグラム	120
(3)	エゴグラムチェック・リスト	121
(4)	潜在的登校拒否生徒(A君～Lさん)のエゴグラム	122
(5)	A君～Lさんのエゴグラムの分析	123
(6)	各自我の成長を促進する行動について	123
6	事例・Hさんに対する予防＝援助	125
IV	研究のまとめと今後の課題(引用・参考文献・資料)	128

浦添市立浦添中学校  
前 川 朝 正

# 神経症的な登校拒否に対する理解と指導方法

～担任ができる予知・予防・援助を中心として～

浦添市立浦添中学校教諭 前川朝正

## I テーマ設定理由

教師として努力すべき事はたくさんあると思う。たとえば、納得のいくまで学級経営について追求すること、あるいは専門教科の研究など…しかし学級担任になったとき、一番気がかりなのは怠学による登校拒否の生徒や神経症的な登校拒否の生徒に出会う事ではないだろうか。なぜならその指導の方法に自信がなく、いろいろな面で心配になり、しまいには憂鬱になる。

登校拒否の実態を全国レベルでみてみよう。

文部省の発表した平成5年度学校基本調査によると、平成4年度の1年間に「学校嫌い」などの理由で50日以上欠席した小・中学校の児童・生徒数は57,918人。これを小・中別にみると小学校で昨年に対して約800人増加し、10,436人。中学校では前年比較約3,800人となっている。

これを30日以上欠席者であると、さらに増えて小学校が13,702人で約1,000人の増加。中学校では58,63人で約4,000人の増加となっている。小・中を合計すると72,065人となり、特に中学校では100人に1人以上の登校拒否の生徒がいることになる。

大変、驚くべき数字であり、特に中学校の教師にとっては益々困難な時代の到来を予想される結果となっている。

沖縄県・浦添市もともに不登校児童・生徒の数が年々増加し、その増加率は全国の2倍の速さで進行している。憂えるべき現象であり、県や各市町村の教育委員会は、その対策にのり出している。

浦添市においても平成2年度より「囑託医による登校拒否児童生徒の教育相談事業」を実施、平成3年度には「学校適応指導教室」も開設された。

文部省の諮問に答えた（学校不適応対策調査研究協力者会議）は『どの子にも起こり得る』と報告し、一部の児童生徒だけの問題ではなくなったことを指摘している。

さて、神経症的な登校拒否については教員生活10年の間に、7名の生徒に出会った。その中で専門医の治療を要する生徒が二人いて、一人はとうとう入院してしまった。これは特別な例かもしれない。しかし、悩みを抱えた生徒が誰にも打ち明けきれずに苦しんでいる。日増しに心身の変調をきたし、救いの手を差し伸べているにもかかわらず、これを的確に把握し、対処できなかったということが、今でも残念でならない。

このような事があってから、神経症的な登校拒否に対する知識と理解の必要性を自覚するようになった。まずは、学校担任としてできそうな事からはじめていきたい。

それは①「現象を分析しその意味を理解すること（予知）」

②「神経症的な登校拒否の予防や早期発見に努めること」

③「適切な援助や指導で登校に導くこと」等である。

教師として“個を尊重し”悩みや苦しみを抱えている生徒の援助になればと思い本テーマを設定した。

## Ⅱ 研究仮説

神経症的な登校拒否についての研究（理解）を深めることによって、予知（早期発見）・予防・援助の方法を学び、その防止、あるいは登校へ向けての適切な指導・援助ができるようになるであろう。

## Ⅲ 研究内容

### 1 登校拒否の概観

#### (1) 登校拒否児童・生徒の出現年代。発生状況

##### ① 出現年代

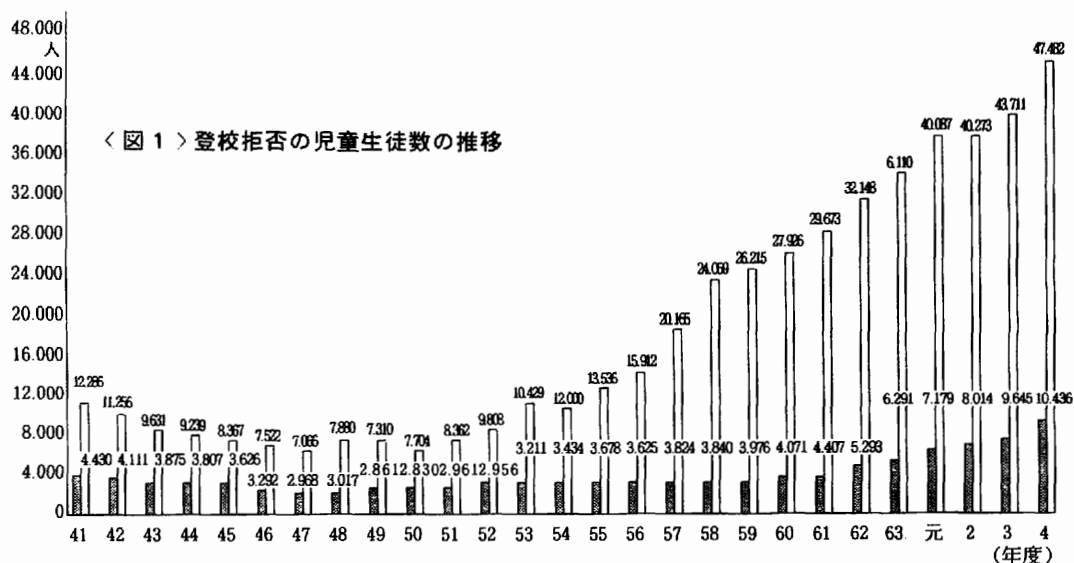
登校拒否は、第二次世界大戦前にはほとんどなかったが、1950年代からよくみられるようになり、1960年代後半になるとしだいに数が増し、問題にされるようになった。

この時期は、高度経済成長によってわが国の経済構造が大きく転換し、子どもの教育についても高学歴志向が定着し、受験中心の教育体制に向かった時期でもあった。

##### ② 発生状況

文部省初等中等教育局の実施した学校基本調査によると、「学校ぎらい」を理由として50日以上欠席した児童・生徒の推移は〈図1〉のよになっている。

特に中学校については、昭和53年を境に急増しており、平成4年度は昭和53年度の約14.6倍となっている。



##### ③ 本県の登校拒否の実態（平成5年・県教育委員会調査）

本県の小学校における登校拒否児童数は50～80人台で、全児童数に対する比率で見ると全国平均より低くなっている。〈表1〉

中学校においては、500～700人台で小学校の約10倍に達し、全児童数に対する比率でもて  
も全国より高く、増加傾向にある。(表2)

平成元年度の調査によると、昭和62年度の中学校における登校拒否の生徒数は619人である。  
その内の6.5%にあたる40名の生徒が神経症的な登校拒否である。平成3年度も6.5%にあ  
たる生徒が神経症的な登校拒否だとすれば、約44名となる。(30日以上の場合約60名)

〈表1〉小学校における登校拒否児童数の推移

年度	沖 縄 県			全 国		
	全児童数	登校拒否児童数	比率	全児童数	登校拒否児童数	比率
昭和62年度	127,018	86	0.07%	10,226,323	5,293	0.05%
昭和63年度	124,579	58	0.05%	9,872,520	6,291	0.06%
平成元年度	122,880	65	0.05%	9,606,627	7,179	0.07%
平成2年度	121,446	82	0.07%	9,373,295	8,014	0.09%
平成3年度	121,226	73 (101)	0.06% (0.08)	9,157,429	9,652 (12,645)	0.11% (0.14)

(注) ( )内数字は、30日以上欠席した登校拒否児童数

〈表1〉小学校における登校拒否児童数の推移

年度	沖 縄 県			全 国		
	全児童数	登校拒否児童数	比率	全児童数	登校拒否児童数	比率
昭和62年度	68,902	619	0.90%	6,081,330	32,748	0.54%
昭和63年度	67,411	558	0.83%	5,896,080	36,110	0.61%
平成元年度	65,204	648	0.99%	5,619,297	40,087	0.71%
平成2年度	62,646	735	1.17%	5,369,162	40,223	0.75%
平成3年度	60,859	673 (915)	1.11% (1.50)	5,118,314	43,794 (54,170)	0.84% (1.04)

(注) ( )内数字は、30日以上欠席した登校拒否児童数

④ 浦添市における登校拒否の実態(市教育委員会発行、%は全生徒数に対する比率)

小 学 校	昭和62年 … → 8名(0.08)%	中 学 校	昭和62年 … → 6名(0.12)%
	昭和63年 … → 12名(0.13)		昭和63年 … → 31名(0.64)
	平成元年 … → 9名(0.10)		平成元年 … → 34名(0.74)
	平成2年 … → 12名(0.13)		平成2年 … → 55名(1.29)
	平成3年 … → 14名(0.15)		平成3年 … → 63名(1.51)

(2) 登校拒否の定義

登校拒否の児童・生徒に対する名称はさまざまあり。「学校恐怖症」「登校恐怖症」「学

校内嫌い」「神経症的登校拒否」「不登校」など研究者や臨床家によってまちまちに呼ばれている。

登校拒否に対する定義も統一されておらず、現在発表されているものを代別すると次の三つ分けられる。

- ① 学校恐怖症といわれる、神経症的なものだけに限定しているもの。
- ② 精神症的な登校拒否のほかに、神経障害・怠け・無気力などを加えるもの。
- ③ 学校へ行くことを拒む、すべての児童・生徒を含めるもの。

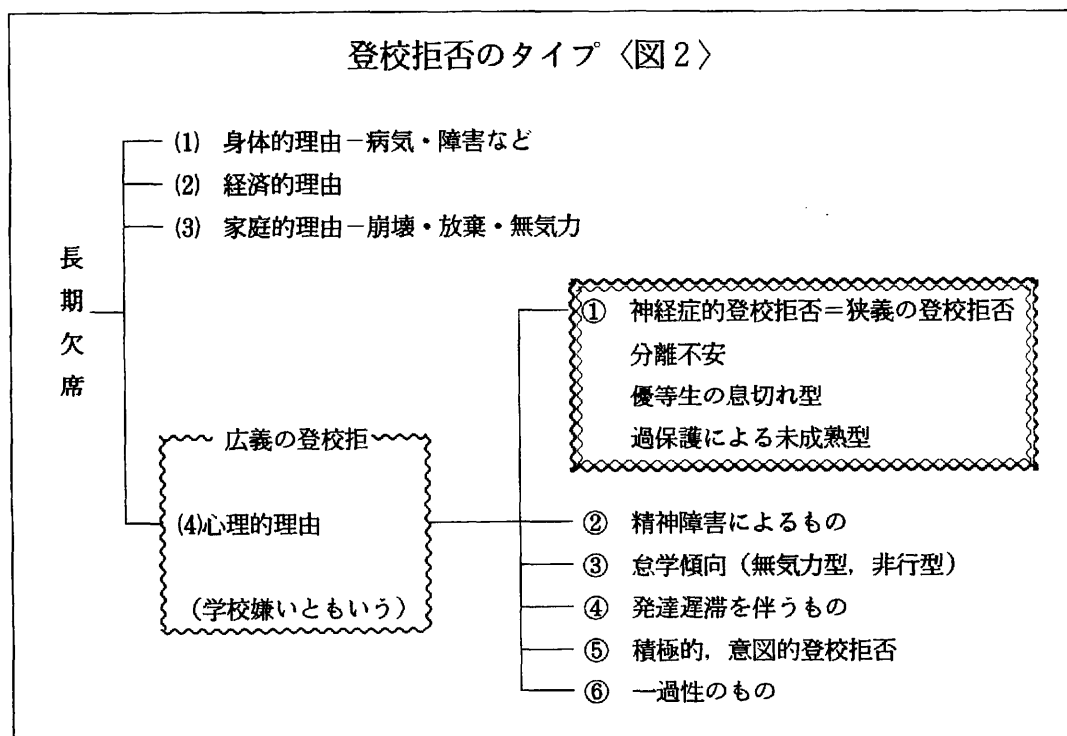
文部省は「登校拒否とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的理由によるものを除く）をいう。」と定義している。

また、事典や辞典などにみられる説明（定義）では、登校拒否について実にさまざまな考え方があり、絶対にこれというものはない。しかし「子どもが、学校に行かなければならないことがわかっており、病気や経済的、その他の事情がないにもかかわらず行けない状況」を言うことについてはほぼ統一している。

### (3) 登校拒否タイプ

#### ① タイプの分類（分け方）

多くの研究者がそれぞれ独自に、登校拒否のタイプ分類を試みている。その分類の様式はさまざまであるが、ここでは小泉英二氏のタイプの分類方法〈図2〉を取りあげ理解をふかめていきたい。



児童・生徒によって、長期欠席の理由はいろいろと異なるが、次の四つのタイプに分けられる。(1)身体的理由、(2)経済的理由、(3)家庭的理由、(4)心理的理由である。

小泉氏は、この(4)を広義の登校拒否（学校嫌いともいう）とし、図2の①神経症的登校拒否を狭義の登校拒否として分類している。

こうしたタイプの分け方は、学校や教育研究所などの教育関係と、児童相談所や情緒障害治療施設などの心理関係、さらに病院の精神神経科や精神衛生センターなどの精神医学関係では必ず一致していない。

実際の生徒はいくつかのタイプを併せもつ場合が多いので、タイプ分けを手がかりにそれぞれの生徒の状態に応じて理解し、対処することがのぞましい。

## ② 神経症的登校拒否の特徴

本研究は神経症的登校拒否（狭義の登校拒否）の研究を対象とする。このタイプの特徴は家庭の経済状態もよく、両親の学歴や教育的関心も高く、本人の身体や知能にも異状がない。

客観的にはなんら学校に行けない理由がないのである。しかも親はなんとかして学校へ行かせようと努力し、本人も行かなくてはいけないと思い、努力を重ねるがどうしても行けないのである。

## (4) 登校拒否の症状

### ① 登校拒否児童・生徒の共通症状（若林による）

ア 親や家族のすすめにもかかわらず、登校を頑強に拒む。理由を尋ねてもいわないか、あるいは極めて些細なことである。

イ 前の晩には、明日は学校へ行くといい登校の準備をするが、当日の朝になると玄関から足を踏み出すことができない。または布団から起き出さず、遅くまで寝ている。むりやり引き起こしたり、学校へ連れ出そうとすると頑強に抵抗し時には大暴れる。

ウ 登校時間が過ぎたり、登校しなくてもよい状態になると起き出し、身体的不調も消失し、食事をしたり、元気に一日を過ごす。

エ 学校の下校時間までは外に出たがらないが、それ以後外へ遊びに出たりする。

オ 日曜日とか学校が休みの時期は元気がよい。

カ 登校をすすめたり、学校のことを話題にすると不機嫌になったりするが、学校のことに触れなければ特に問題は起こさず、気楽にやっているようにみえる。

キ 学校でも特目立った問題はないので、なぜ学校を休むのか教師にもよくわからない。

ク 頭痛、腹痛などの身体症状を訴えるので、近くの内科、小児科を受診するが、身体的にはどこも悪くないと言われる。

ケ 時には、入院していろいろな検査を受けても、何の異常も認められない。

コ それで、親は子どもに登校を促すが、子どもはますます頑強に抵抗するばかりである。

### ② 登校拒否・各時期の症状

ア～コで、登校拒否に共通する症状を理解した。次に、慢性的な登校拒否に陥った生徒が立ち直って登校できるようになるまでを明らかにしたい。

登校拒否児童・生徒の場合、担任がどんなに一生懸命努力しても不可能な時があり、か

えって事態を悪化させてしまうケースがある。その生徒の症状・状態を見極めながら、適切な援助をすることが大切である。時と場合によっては見離す期間も必要である。

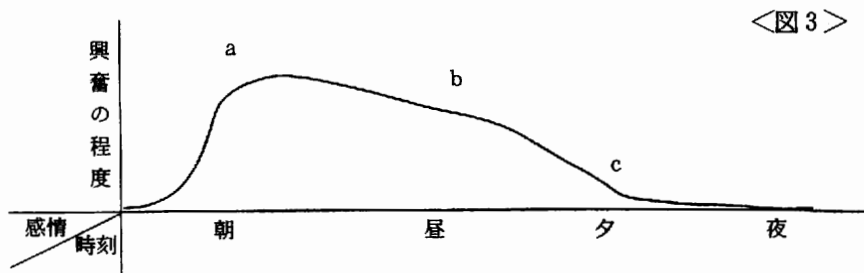
砂田和孝氏は登校拒否児童・生徒の各時期の症状を次の六つに分けている。

1. 不平・不満の時期 …………… この時期は、不平・不満・不安をのべて親を困らせ、何かの理由（理由づけの階段）理由をつけて学校を休もうとする時期である。  
↓ 「先生がこわい」「友だちがいじめる」「勉強がわからない」  
↓ 等
2. 身体症の時期 …………… 身体的症状が全面にでる。症状は午前中、登校時を中心に悪化し午後は軽快する。  
↓ 「発熱」「下痢」「おう吐」「腹痛」「頭痛」「目まい」  
↓
3. 反抗・暴力の時期 …… 激しく怒ったり、物に当たったりするようになる。強い登校刺激を与えることによって、この状態が絶頂に達し、時として家庭内暴力の契機がこの時期につくられ「激しく怒る」「物に当たる」「家庭内暴力」「強制的傾向」  
↓  
↓  
↓
4. 怠惰・閉じ込みの時期 …… 昼夜が逆転し、自分中心に物事をすすめ家族を支配する時期である。  
↓ 「自室に閉じもる」「家族ともあまり口をきかない」「散髪や入浴をしない」  
↓
5. 登校準備の時期 …………… この時期、学校や友達や勉強のことなどを話すようになり、部屋のなかで遊んだり、友達と遠くへ遊びに行くようになる。  
↓
6. 立ち直りの時期 …………… ぼつぼつと登校するようになるが長続きせず、再び登校拒否に陥る場合が多い。この時期に大切なことは学級の受入れ態度であり、担任は座席の配置や級友への根回しを十分やっておく必要がある。

### ③ 欠席時感情変化

神経症的登校拒否の児童・生徒は一日の感情に大きな変化がみられる。〈図3〉のような状態になり、これは登校拒否の始まりや、登校刺激（朝起こしたり、登校させようとしたり、朝食をとらせようとするなど）を与えている時に強く現われる。

この感情の変化は日曜日や休日・夏休み・春休み・冬休みなどには現れず、元気で明るく生活している。



〈図3〉により、感情が一番高ぶっているのは「朝」であり、「下痢」「おう吐」「腹痛」等の身体症状が現れる。「夕」「夜」は平静になり明日は学校へ行こうと決意する。

## 2 登校拒否の原因

登校拒否児童・生徒を援助していくには、その原因を理解しなければならない。本人の性格以外にいろいろな要因が複雑に関わり合っており、その関係を明らかにしていくことが必要である。ここでは宇都宮大学教授の堀内聡氏の説を参考にしてまとめてみる。

### (1) 社会的要因

- ① 戦後、経済成長とともに産業構造も変化し高学歴社会（高学歴志向）偏重の風潮を生んだ。子供達はひたすら自分だけの為に勉強にしのぎをけずる。塾が繁栄する。落ちこぼれが出る。
- ② 高度経済成長にともない都市化現象の発生、人口の都市集中の結果遊び場が減少する。また共働きなどのために子供は家の中にこもり、交友関係が閉ざされカギッ子となる。
- ③ マス・メディアの発達により、友達と遊ばなくてもテレビやテレビゲームなどをとおして、一人で楽しめる状況がつくられた。子供達は対人関係の中で、もまれて生きる機会を失う。

### (2) 学校の要因

- ① 高学歴社会を反映して受験戦争が激化する。「勉強ができる」ということだけでの一元的な価値が強調され、子供達にとって失敗は大きな挫折となる。
- ② 教育の内容が知的教科偏重で学力中心となる。画一的教育、管理教育がゆきわたり、教師はゆとりと自由を失い、そのため子供達を抑圧したり体罰を加えたりする。

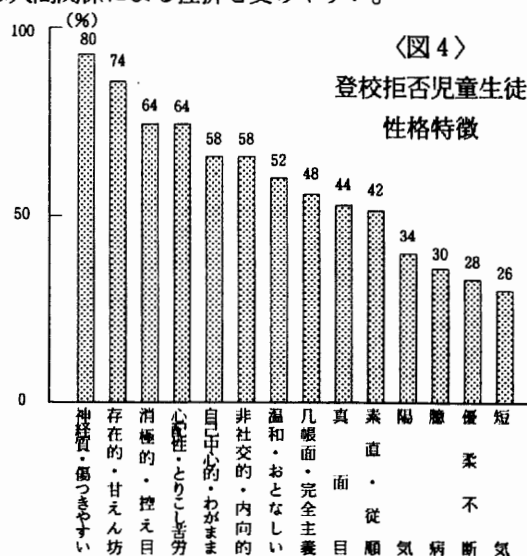
### (3) 家庭内の要因

- ① 「父親の喪失」すなわち経済成長にともない父親は単身赴任、または長時間会社に縛られる。子供が目にする父親は、仕事に疲れはてて「ごろ寝」をしている姿が失われている。
- ② 戦後の民主化にともない家父長的家庭制度が崩滅する。男女平等の原則によって「夫婦」を中心とする核家族化現象が進行し、家庭は孤立化している。また、少子現象のため過保護と過干渉になり子供の自主性を阻む。子供は人間関係による挫折を受けやすい。

### (4) 本人の性格要因

登校拒否児童・生徒の性格特徴を特定することはできないが、実に多くの研究者たちが沢山の傾向をあげている。ここでは、星野仁彦・熊代永氏が調査した510例の登校拒否児の共通した性格傾向〈図4〉を紹介して理解を深めたい。

その他、引っ込み思案、逃避的・強情・情緒・発達未熟・無口・ヒステリー・無力傾向・自信欠乏・意志薄弱・抵抗力や忍耐力や決断力がない。





### 3 登校拒否の早期発見

新しい学期が始まったとする。この時期の生徒は不安と期待の入り混じった気持ちで緊張しほとんどの生徒が登校する。登校拒否の生徒を早期発見する時期としては一番よい。クラスの中に登校拒否の生徒いかなければ幸いであるが、もしものことを考えて先手を打つことは大変よいことだと思う。

《学級担任による手だて（身近なものの中から）》

#### (1) 過去の資料に目を通す

年度の始めに担任する生徒が決定したら、昨年までの指導要録などの資料に目を通す。特に出欠欄に注意する。一番身近な手がかりであり情緒不足で失敗しないようにする。登校拒否傾向がある場合はこの点で気づくことが多いし、出欠の状況だけでなくある程度の性格を含めた生徒像がつかめる。

#### (2) 保護者からの情報を得る

指導要録などの資料だけでは不十分な点、発見されない点であるかもしれないので、学級PTAや家庭訪問前にアンケート（下表）を実施して情報を提供してもらおう。最近、心配している事とか、小学校時代の事など登校拒否につながるような情報を提供してもらおう。

生 育	乳 児 期	1 母親との接触 2 人見知り 3 いたずら 4 母への後追い	ア. よくした ア. よくした ア. よくした ア. よくした	イ. あまりしなかった イ. あまりしなかった イ. あまりしなかった イ. あまりしなかった	ウ. 全然しなかった ウ. 全然しなかった ウ. 全然しなかった ウ. 全然しなかった
	幼 児 期	1 いたずら 2 母への甘え 3 習慣癖（くせ） 4 けんか 5 友人との遊び 6 入園時の様子	ア. よくした ア. つよかった ア. あった ア. よくした ア. 友達の所へよく行った ア. 喜んで行った	イ. あまりしなかった イ. あまりしなかった イ. あまりしなかった イ. あまりしなかった イ. 友達がくれば遊んだ イ. まあまあだった	ウ. 全然しなかった ウ. 全然しなかった ウ. 全然しなかった ウ. 全然しなかった ウ. 遊ばなかった ウ. 行くのをしぶった
	小 学 校	1 登校 2 食事 3 口答え 4 母への甘え 5 友人関係	ア. 喜んで行った ア. 好き嫌いなく食べた ア. はげしかった ア. つよかった ア. 友達のところへよく行った	イ. まあまあだった イ. 好き嫌いがあった イ. あまりなかった イ. あまりなかった イ. 友達がくれば遊んだ	ウ. 行くのをしぶった ウ. すききらいがはげしかった ウ. 全然なかった ウ. 全然なかった ウ. 遊ばなかった

歴		6 習癖 (くせ) 7 運動	ア. あった ア. よくした	イ. あまりなかった イ. あまりしなかった	ウ. 全然なかった ウ. 全然しなかった
	中学校	1 登校 2 食事 3 友人関係 4 口答え 5 運動	ア. 毎日行く ア. 好き嫌いがなく食べた ア. 友達のところへよく行った ア. はげしかった	イ. 体の不調を訴えてときどき休んだ イ. 好き嫌いがあった イ. 友達がくれば遊んだ イ. あまりなかった	ウ. 1週間以上休んだ ウ. 好き嫌いがはげしかった ウ. 遊ばなかった ウ. 全然なかった
		現在, 気になることを書いて下さい			

(「登校拒否児の発見と援助・指導」を参考)

ウ. の項目に注目する

アンケートを実施し, ウ. の項目に注目をする。幼稚園のとき登園をしぶった場合, 母子分離不安の経験をもつし, また友人関係において遊んだ経験がなければいほど登校拒否に陥る傾向が強い。習癖の場合, ツメをかむとかチック症などから精神的なストレスを読みとることができる。

### (3) 出席状況に注目する

1学期が始まる。あるいは2学期・3学期, または学期の途中であってもよい。常に出席状況 {欠席・早退・欠課 (保健室)} を把握し関心を持ち続けておく。なぜなら, 各おのおのこの時期にはじめて登校拒否の兆候が現れるかもしれないからである。

欠席者についてはその理由を明確にしておく。「頭痛・吐き気・発熱・気持ちが悪い…」などの身体症状を訴えたとき, 病気だと簡単に判断せずにしばらく様子を見る。そして, 休んだ時の家庭での状態をくわしく尋ねて情報を収集する。病状が朝のうちだけ消失し午後になると元気になるとか, また土曜日の午後, 日曜日, 休日なども元気である場合は精神的な登校拒否の疑いがある。

### (4) 養護教諭からの情報

たとえば, 欠課 (この場合は保健室へ行った為) が多くなるようであれば, 養護教諭の先生と相談しその生徒の観察をお願いする。どのような理由で来室するのか, 病状はどんなぐあい (単なる怪我・気分不良・だるい・腹痛・発熱など), 神経症的なものなのかそうでないのか情報を得る。神経症的な登校拒否傾向の生徒は頭痛・だるいなどの身体症状を訴えて保健室を訪れることが多い。保健室では身体面の健康だけでなく, 精神面の健康状態も明らかにする。

(5) 生徒の発するサインの察知と他教師との情報交換

登校拒否の生徒の場合、休み始めてから気づくことが多い、それ以前にも何らかのサインを出している。たとえば、「元気がない・暗い感じがする・授業中ぼんやりしている・友人と話さない・いつも一人ぼっちでいる…」など、こんな様子がみられたらサインを出しているとみてよい。しかし、中学校においては教科制の事情があり、学級担任が生徒と触れ合う場は限られている。生徒の発するサインに対して担任一人では、一方的になる恐れがあるので他教師との情報交換をおこない客観性を持つ必要がある。

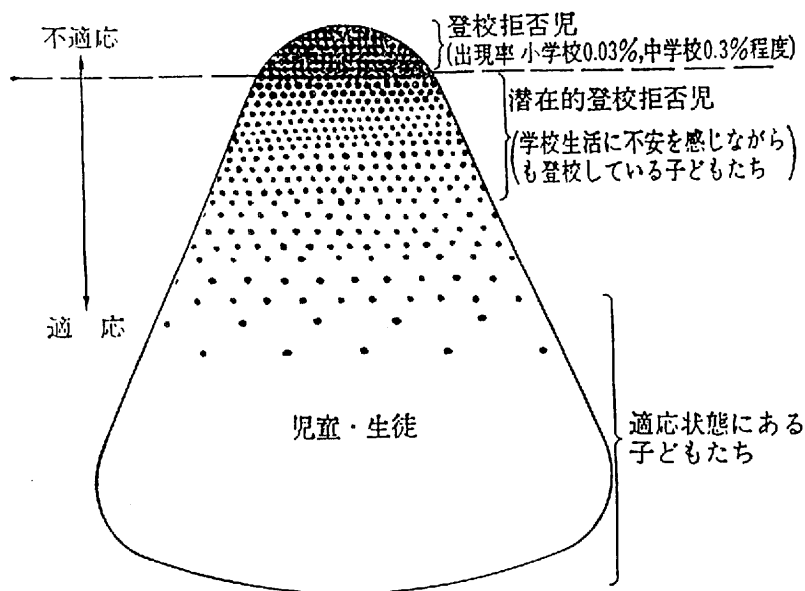
4 潜在的登校拒否児童・生徒の予知

さて、2の(1)～(5)の活動を実践しながら、もっと具体的に別の側面から登校拒否傾向の児童・生徒の早期発見に努めていきたい。まず、自分のクラスの生徒の中にどれくらいの潜在的登校拒否者がいるのかを把握し（予知）、実際に登校拒否に陥る前に予防（援助）ができるようにする。

(1) 潜在的登校拒否・生徒の理解と把握

寺田康明氏によると、潜在的登校拒否児・生徒とは「実際に登校拒否を起こしている子どもたちと同じ性格や問題を色濃く持っている児童・生徒」のことである。すなわち、実際に登校拒否の生徒がいるとすると、その背後には今すぐにも登校拒否を陥ってもおかしくない生徒がいるということである。この事実を学級担任は理解し、生徒が登校拒否に陥る前になんらかの対策をたてる必要があるのではないかと考える。

〈図5〉 潜在的登校拒否児童・生徒



(2) チェック・リストによる潜在的登校拒否児童・生徒の予知

〈表3〉

(児童・生徒用) 学年 氏名〈 〉	はい	わからない	いいえ
友達だちが少なかったり、いないですか			
友だちはおとなしい人が多いですか			
同級生より下級生と遊ぶことが多いですか			
友だちがさそってくれないと遊ばないですか			
友だちが話しかけても話さないことがありますか			
友だちにいじめられると先生に言いますか			
顔色がよくなく、元気がないですか			
食べ物に好ききらいが多く給食をよく残しますか			
運動がきらいで外で遊ぶことが、少ないですか			
病気でないのに体重が減ることがありますか			
授業中あまり発表しないですか			
先生が話しかけてくれないと先生と話さないですか			
体育などきらいな教科がありますか			
友だちや先生からよい子だと思われていますか			
仕事はきちんとしないと気がすまないですか			
小さな失敗でもいつまでも気になりますか			
何かをする時に自分勝手だといわれることが多いですか			
何か決める時に迷って時間がかかりますか			
自分の行動に自信がないですか			
1日の中で、たびたび気分が変わりますか			

(「登校拒否児の発見と援助・指導」より)

このチェック・リスト〈表3〉は甲斐志郎氏。他3名によって作成された。小学校高学年児童327名、教育相談室に來所している登校拒否の児童20名を対象にして実施され、その有効性の検証もおこなわれている。「はい」を2点「いいえ」を0点。「わからない」を1点として合計する基準を15点以上とする。すなわち15点以上の場合は潜在的な登校拒否児童・生徒とみなすのである。しかし、個々においていろいろと事情が異なるので、15点以上の児童生徒すべてが登校拒否になるとは限らない。

実際に自分のクラス（男子19、女子17、合計36名）で実施してみたら15点以上の生徒12名（男子5名、女子7名）もいた。〈表4〉、ということは12名の生徒が潜在的登校拒否の生徒ということになる。今後のこの12名に関心を持ちながら予防（援助）に努めていくことにする。

〈表4〉

男子					女子						
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
21点	20点	19点	17点	17点	21点	19点	19点	18点	17点	15点	15点

出席状況を点検してみたら次のような結果になった。〈表5〉、出席状況の点から心配するならばHさんであり、登校拒否傾向であるということが理解できる。他の11人に対しても関わりあいながら当面、Hさんに焦点をしばらく予防（援助）的処置をとる必要がある。

〈表5〉

11月5日現在

	男子					女子						
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	2	7	0	0	0	0
7月	0	0	1	0	0	0	0	6	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0
11月	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
合計	0	1	2	0	0	0	5	29	0	0	0	0

さらに、Hさんの欠席日を曜日に分けると、木曜日と火曜日に集中している。登校拒否傾向として日曜日や休日の翌日、また特定の嫌いな教科があるときに休む場合が多い。

月	火	水	木	金	土
5	7	1	10	5	4

Hさんの火曜日の時間割り

1	2	3	4	5
理	社	数	道	国

Hさんの木曜日の時間割り

1	2	3	4	5
理	社	数	道	国

## 5 潜在的登校拒否の予防（援助）

### (1) エゴグラムの活用〈エゴグラムによる内面理解〉

エゴグラムとは、交流分析の考え方から生まれた性格検査法であり、性格を次の5つの基本的構造要素（CP、NP、A、FC、AC）から成るとしている。すなわち、人間の心的エネルギー（愛情、憎しみ、笑い、泣く、黙る、ふざける、ジェスチャー、姿勢、表情などすべての行動）を5つの自我状態〈表6〉に分類し、それらの発生頻度をグラフに示して視覚的に促えられるようにしたいものである。心的エネルギーが自我状態のどこかにつけて心の動きの主導権をにぎり行動となって現れる。自分をコントロールするためには心的エネルギーの分配を適切な形にする必要がある。そこで、潜在的登校生徒のエゴグラムをとり、その生徒の心的エネルギーの分配を適切な形に導く指導をすることによって、登校拒否の予防につながるのではないかと考える。

5つの自我状態の特色〈表6〉

CP 批判的な 親の心	信念に従って行動する厳しい父親のように親の心です。自分の価値観や考え方をゆずろうとせず、他人を批判としたりします。良心や理想と深く関連していますが、CPが強すぎると、尊大で支配的な態度、命令的な口調などがめだつようになります。
NP 保護的な 親の心	思いやりをもって世話するやさしい母親のような親心です。親切・いたわり・寛容な態度と関連しており、親身になって人のめんどろをみる保護的なやさしさが特徴です。NPが強すぎると、過保護やおせっかいになりやすいので気をつけて下さい。

<p><b>A</b> 大人の心</p>	<p>事実に基づいてものごとを判断しようとする合理的な大人の心です。 Aはコンピューターにたとえられ、データを集め論理的に処理していく働きをします。Aが強すぎると、打算的で冷たく情緒の乏しい人間味に欠けた人になるおそれがあります。</p>
<p><b>F C</b> 自由な子供 子供の心</p>	<p>自分の欲求のままにふるまい、自然の感情をそのまま表す。何ものにも縛られない自由な子供の心です。明るくて無邪気ですが、わがままな面があり自分勝手に依存的な面をもつ。他に他人への配慮に欠けることがあります。</p>
<p><b>A C</b> 順応した 子供の心</p>	<p>自分の本当の気持ちを押しさえて相手の期待にそおと努める順応した子供の心です。ACは自分を押し社会模範に従って行動する傾向をもつ。それが強くなりすぎると、イヤイヤなことをイヤといえずにストレスを心の中に溜めこむことになってしまいます。</p>

(2) 典型的なエゴグラム〈表7〉

(『交流分析とエゴグラム』より)

構え	典型的エゴグラム	解 雇
<p>自他肯定</p>		<p>「私も他の人もすべてOKである」という民主的で建設的な人生観をもって生きている人の場合。典型的エゴグラムは、(NP)をピークとし(AC)へ下っていく山型で、(P)や(A)の機能が強いのが特徴である。他の人との間に暖かい交流が行われやすく、(FC)もある程度高いので自分を適切に表現でき、人間関係がうまくいきやすい自我状態と言える。</p>
<p>自己肯定・他者否定</p>		<p>「私はOKだが他の人はOKでない」という、自信をもって非他格的で責任転嫁的な人生観をもって生きている人の場合。典型的エゴグラムは、(CP)と(FC)高く(NP)と(AC)が低い逆N型で他の人には批判的だが自分を積極的に生かそうとする(CP)や(FC)の機能が表面にでるのが特徴である。ともすれば周囲との間に摩擦が生じやすい。</p>
<p>自己肯定・他者否定</p>		<p>「私はOKでないが他の人はOKである。」という劣等感・無力感を伴った人生観をもって生きている人の場合。典型的エゴグラムは、(NP)と(AC)が高く(CP)と(FC)が低いN型で、自分を抑えてでも他の人との関係を良くしようという(NP)や(AC)の機能が表面にでるのが特徴である。内部に矛盾が蓄積されていく場合が多い自我状態と言える。</p>
<p>自他肯定</p>		<p>「私も他の人もみなOKでない」という虚無的で非建設的な人生観をもって生きている人の場合。典型的エゴグラムは、(NP)を底とし(AC)へ上っていく谷型で、(P)や(A)の機能が弱く(C)の機能が強いのが特徴である。(NP)が低いために他の人との暖かい交流が持ちにくく、(AC)が高いため自分に対して肯定的構えがとりにくい自我状態と言える。</p>

(3) エゴグラムチェック・リスト

エゴグラムチェック・リスト〈表8〉は多くの学者によっていろいろと考案され、小学校用・中学校用・高校生用・成人用とそれぞれ用途におうじて使い分けられている。ここでは、琉球大学教授、新里里春氏の考案した中・高校生用のエゴグラム・リストを使う。

下に人に行動を表す文章があります。それぞれの文章とあなたの行動が

- 一致していると思う場合は ..... [ 3 ]  
 一致しない場合は ..... [ 1 ]  
 どうしても決めかねる場合は ..... [ 2 ]
- を空欄に記入して下さい。

〈表8〉

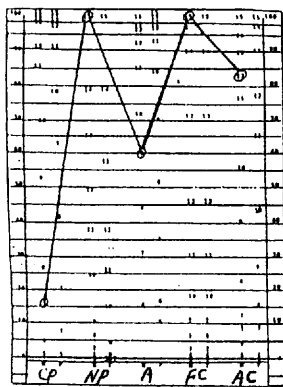
1	同級生が下級生に命令することができる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
2	困っている人に同情する。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
3	冷静に考えて行動するほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4	みんなとどんちゃんさわぎをするのが好きである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
5	不平不満が多いほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
6	がみがみ言う人に言いかえせる。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
7	人の心配事などに同情するほう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
8	物事の原因などを冷静に考えるほう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
9	仲間とふざけたりするのが好きである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
10	感情を出すほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
11	どちらかというと遠慮深くない。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
12	かわいそうな人に同情するほう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
13	勉強や仕事など能率よくするほう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
14	明るくふるまうほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
15	ときどき落ちこみ、ふさぎこむ。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
16	どちらかという自信がある。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
17	困っている人をみると手助けするほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
18	勉強などは計画をたてて、実行するほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
19	遊ぶことはなんでも好きなほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
20	わがままなほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
21	他人と対立するときに、妥協しないほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
22	他人に親切にするほうである。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
23	出来事などの原因などを科学的に考える。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
24	よく冗談をとばしたり談笑する。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
25	親や先生の顔色を見て行動するほう。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

値

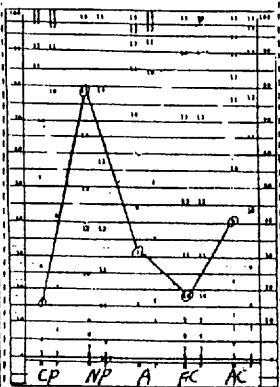
CPNPAFCAC



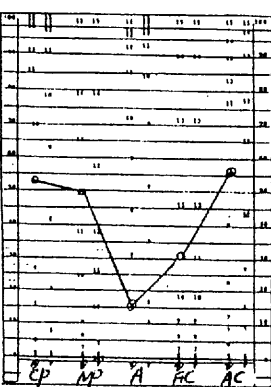
(4) 潜在的登校拒否生徒 (A君~Lさん) のエゴグラム



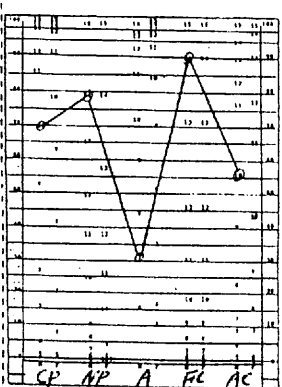
A



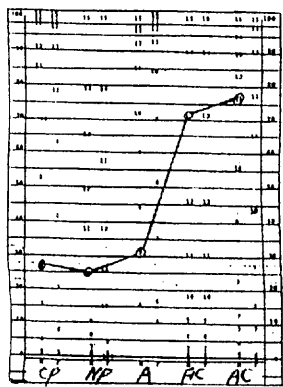
B



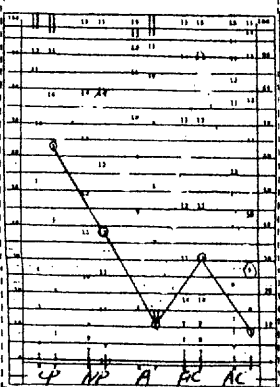
C



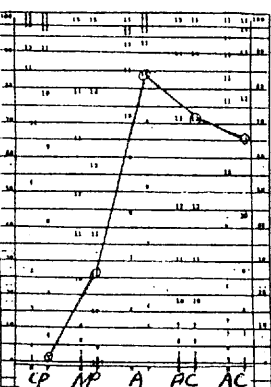
D



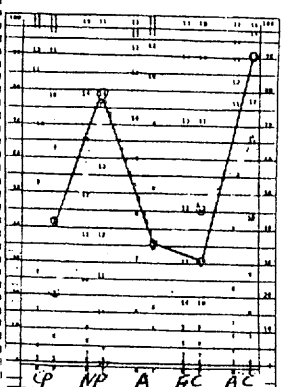
E



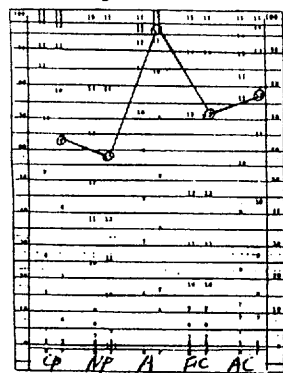
F



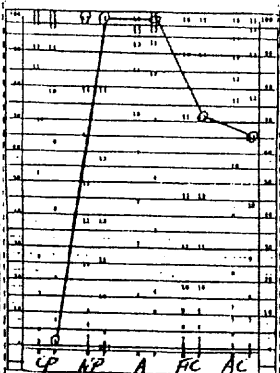
G



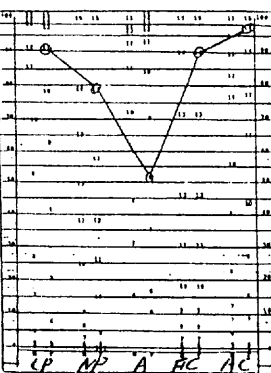
H



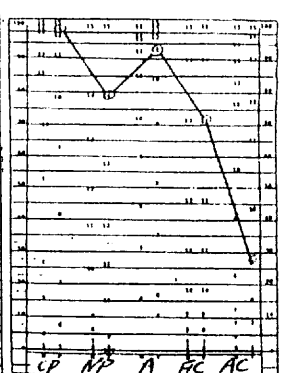
I



J



K



L

(5) A 君 ～ Lさんのエゴグラム分析

A 君 ～ やさしさ思いやりがあり (NP), 自由な子供心を (FC) もっているが人を批判したり非難したりできない面がある。

B 君 ～ やさしさや思いやりがある (NP) が, CPが低いと人々を批判したり非難できない。

C 君 ～ Aが低いと計画性, 合理性に欠ける。FC<ACで合致する。

D 君 ～ FCが高いため自分の欲求のまま自然にふるまう。わがまま, 衝動的。

E 君 ～ ACが高く, 親や教師の期待にこたえようとするよい子である。ややもするとN型。

Fさん ～ 批判的側面が強い人とのトラブルがある。(CP)。ACが低く強調性に欠ける。

Gさん ～ 合理的な大人の心を持つ反面, CPが低いとリーダーシップがとれない。

Hさん ～ 自然な子供らしい感情を表現できず, イヤなことをイヤといえず人に合わせる。そのためストレスが溜まる。N型, 別名心身症型。頭痛, 風邪がよく休む。

Iさん ～ 全体を冷静にみわたり判断をくだすことができる。

Jさん ～ 思いやり・いたわり・やさしさをもつが人を批判したり非難するときもある。

Kさん ～ どちらかというところ, 計画を立てて行動することが苦手で孤独するときもある。

Lさん ～ 逆N型でCP>NPのため批判的側面が強い。FC>ACのためわがまま。

(6) 各自の成長を促進する行動について

潜在的登校拒否生徒のエゴグラムを分析し, 自己状態の弱い (心的エネルギーの弱い部分) を成長させるための方法として次のようなものがある。ここでは琉球大学教授新里里春氏の講義資料を参考に, 生徒ができそうなものをあげてみる。

### ① CPの自己状態を促進させる方法

ア. 大声で発声練習をする。(単音のアーなど)

イ. 新聞記事への批判文の作成と言語化。

・加害者や被害者についての批判文を書いて大きな声で読む。

エ. 枕たたきをする。(発声と同時に)

エ. 断行訓練 (次のいずれかを毎日発声練習する)

・いやだ! 駄目だ! お断りだ! ちがうよ! よくないね!

これをしなさい! カンニングするな! こっちにこい!

遅刻するな! あっちへ行け! 叩くな! 遊ぶな! 黙れ!

静かに! 泣くな!

### ② NPの自己状態の成長を促進させる方法

ア. 相手と自分をほめる練習をする。

イ. 誉められた時に素直に「ありがとう」と言う練習をする。

- ウ. 相手の身になる練習。
  - ・チェアー（椅子）技法,
  - ・「してもらったこと」探し
- エ. 友, 父, 母お客…の為に料理する。
- オ. してもらいたいことをしてあげる。
- カ. ボランティアをする。

③ Aの自我状態の成長を促進させる方法

- ア. 疑問詞（何時, どこで, 誰が, 何を, どのように, ）を使う練習。
  - ・三面記事（事件記事）を読んでまとめる。
- イ. メモ帳を常時携帯しメモする。
- ウ. 毎日, 日課表をつくり計画的にする。
- エ. 算数, 数学の勉強を意図的にする。
- オ. 感情が高ぶるときに深呼吸する。

④ F Cの自我状態を成長を促進させる方法

- ア. 大声で歌を唄う（絶叫調）。
  - ・毎日歌を口ずさむ
  - ・カラオケに挑戦する。（月1回, カラオケボックスで家族と唄う）
- イ. 子供と戯れる。
  - ・ゲームをして遊ぶ。
  - ・水遊びをする。（大声をだしながら）
- ウ. 趣味のグループをつくり趣味を楽しむ。（サッカー, 草野球…）
- エ. 家族といっしょに釣りを楽しむ。
- オ. 時間を決めてテレビを毎日観る。

⑤ F Cの自我状態の成長を促進させる方法

- ア. リーダー体験をする。
- イ. 相手を目上のように感じてみる。
- ウ. 相手の身になる練習をする。
  - ・チェアー（椅子）技法
- エ. 傾聴練習
  - ・相手の意見をよく聴く。
  - ・言いたい意見を押さえてひたすら聴く・質問する。

オ. 相手に従う練習

- ・甘えることの良さを発見する。

カ. 相手の提案に賛成する。

- ・テレビのチャンネルの取り合いで妥協する。
- ・ある程度、重要な決定事項で妥協する。

キ. ひたすら謙遜の練習をする。

- ・人はみんな素晴らしいと思えるようにする。
- ・人はみんなそれぞれの領分で頑張っていると思う。

#### 4 Hさんに対する予防=援助

(1) Hさんのプロフィール

那覇市内の小学校を卒業、小学校時代はおばあさん・姉・弟と住む。父母は別居中。中学1年になって浦添市内の母・妹と住むようになる。母親は夜の仕事。小学校の欠席はほとんど無し。中1になってからの欠席（P13）の理由は発熱や風邪であり、実際に病院に行ったこともある。無口でおとなしいが几帳面なところがある。

(2) 1回目の教育相談（10月28日）

T：最近、よく話をするようになったねー。（いろいろなアンケート調査した時、意図的に話しかけた。）

H：…（無言）

T：風邪は治ったかなァー H：ウン…

T：体の調子はどおー H：別にな変わっていない

〈29日の欠席があることを確認する〉

T：火曜日と水曜日、特に木曜日の欠席者が多いけど何か理由でもあるの

H：…（黙っている）〈15秒ぐらい間をおく〉

T：もしかしたら嫌いな教科があるの…（しばらくしてから時間割表を見せる）

H：〈時間割表をのぞきこみ、教科を確認している…10秒ぐらい〉

T：どの教科が嫌いな… H：別がない

T：そうか、安心したよ。でもどうして木曜日に集中しているのかなー

H：…（黙っている）〈30秒ぐらい間をおく〉

T：どうてかなー（曜日別の欠席日数表をみせる）

H：土曜日のクラブがいやだなーと思って休んだことはあるけど…

〈10秒ぐらい間をおいて〉

H：あした行こうと思ったら、その日（欠席の多い日）は行けなくなってしまう…

T：そうか、行こうと思って努力しているんだね…えらいねー…

- ・〈一週間に3回欠席が1度、ほとんどが一週間に2回である。休まない週もあることを理解させる〉

- ・〈エゴグラムの結果をみせる〉FCが低いので、娯楽を楽しみ腹の底から大声で笑ったり、スポーツをやって汗を流す機会を多く作るように話す。このエゴグラムの分析については、後日、改めてやることを約束する。

T：明日からも頑張っていこうねー H：もう帰っていいの…

T：今日、先生と話しして理解できたこと、わかったことを作文に書いて来てくれない

H：口で言ったから、もう書けない

Y：〈10秒ぐらいして〉じゃ、今日は終わろうか。あまり無理はしないようにね、

H：さようなら…〈軽く会釈して出て行った〉

面談の結果、確信したことは明からに登校拒否の傾向だということである。もちろん欠席日数からも判断できるが、何よりも本人の言葉が証明である。「明日は学校へ行くと思ったから行けなくなってしまった」これは登校拒否の生徒の特徴である。

### (3) 2回目の教育相談(11月5日)

#### ① エゴグラムの分析～FCを高める援助

一般的に登校拒否児童・生徒のエゴグラムは $FC < AC$ になっている場合が多く、全体的にみるとN型になる。別名心身症、神経症のものに多い。この点に注目すると、 $FC < AC$ の差が特に大きいのはHさんであり現在(11月5日)の欠席日数は29日である。このことから $FC < AC$ に注目することは正しいといえる。また、B君のエゴグラムもN型となっており、その可能性も秘めているが今のところ欠席は1日である。

$FC < AC$ ということは、子供らしい自由なふるまいや感情(FC)を押え、親や教師や友人の期待にそうように行動するため(AC)ストレスが溜り、腹痛や頭痛が起こる。

#### 〈分析〉

典型的なN型に近い。ACが高すぎて、 $FC < AC$ の差が大きい。あまりにも自分を抑圧し人に合わせるようにするため(いい子になろうとするため)、内部に矛盾が蓄積されて学校がいやになり休む。劣等感も強いのではないかと思う。また $CP < NP$ の差もやや大きい。このことは他を批判せず、簡単に同調するため不安に陥やすい。

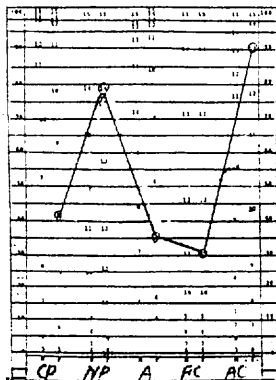
#### 〈対策〉

本ページ18「FCの自我状態の成長を促進させる方法」を理解させ、家庭でそれを実行することによって自分の性格が良い方向へと変わっていくであろうということを話す

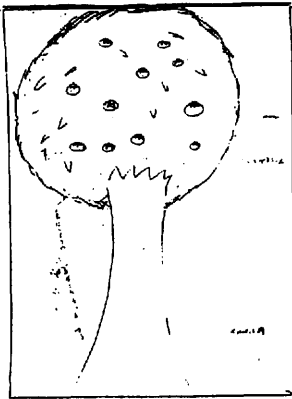
また、学級では自分の意見を述べる機会を作ってやり積極的に自分を出すように仕向ける。

次に、ACを下げるために友達同士であっても、時には「いや」ということも必要であることを話す。遠足が終わったその日に、もう一度エゴグラムをとることを約束する。

(Hさんのエゴグラム)

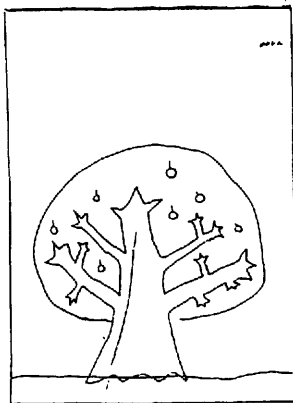


② 生徒に一本の木（バウム）を描かせたとき、描かれた樹木は、環境の中における本人の心の特徴を表現したものである。すなわち本人の人格の投影であると言われている。自分の内命を言語化できない生徒がいるので、生徒理解を深めるために実施する。



Hさん

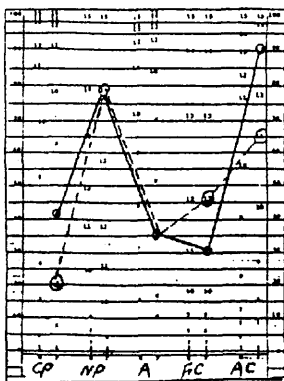
- ・位置が左寄り→内向的，用心深い，母親への依存傾向
- ・冠強調→防衛，劣等感の補償，自己拡大
- ・上はみ出し→自己の置かれている環境からの逸脱
- ・幹が太い→自我拡大，肩や肘をはり背伸び，劣等感の過補償
- ・根元紙下縁立→退行，子どもっぽい
- ・くびれ→うっ積するものを持つ，欲求不満抑圧，重苦しさ，固執
- ・枝がない→外界へ手を出さない，他者への働きかけを拒んでいる
- ・樹冠の雲球型→空想的，活気がない，従順
- ・実，少ない→気力が弱い，将来への希望がない
- ・筆圧が弱い→エネルギーが弱い，無気力，ためらい，不安定，抑うつ



B君

- ・位置が中央下→無気感，他から拒否されたという不適応感，依存
- ・幹が太い→自己拡大（肥大），素直に指示に従わない，劣等感の過補償肩や肘を張り背伸び
- ・樹皮の線→刺激されやすい，傷つきやすい，感じやすい，外界との摩擦
- ・根元の左ふくらみ→抑制，固着，母親との結びつき
- ・枝の先鋭→感受性が強い，批判的，攻撃的
- ・樹冠の雲球型→活気がない，従順，空想的
- ・実かない→収穫希望が弱い，気力が弱い，将来への希望がない
- ・根の先端閉鎖→不活発，（根を描くことは心理的に不安定感がある）
- ・地平を描くのは→よって立つ基盤が不安定なもの（自信欠如）に多い

③ Hさん3回目の教育相談（11月15日，遠足終了後実施）



〈分析と対策〉（エゴグラム，前回－，今回…）

前回， $FC < AC$ の差があまりにも大きかったが，今回のエゴグラムではその差が縮まっている。相対的にACが低くなりFCが上がってきた。つまり，子供らしい自由で自然な感情が前よりも多くなったことを意味するので，おおげさに誉めて自信を持たせた。これからも自分の好きなことを思う存分やるように話す。今後はFCを高めていきながらCPを高めていくようにする。そのためには自分の意見を勇氣を持って言えるようにし，批判力を養うように頑張っていくことを約束した。

#### IV 研究のまとめと今後の課題

##### 1 研究のまとめ

この日本国で、登校拒否がいつごろから発生し、その背景と原因には何があるのか。なぜ、このような生徒達が出現するのか、何冊かの研究所書を読んでまとめていくうちに、このような疑問は解決できた。

そして、何よりも大事なとき登校拒否で苦しんでいる生徒の気持ちを理解できるようになったことである。ややもすると、登校拒否することは悪いように想われがちである。実際、親も教師もそのように思っているのが多いのではないか。しかし研究を深めていくうちに、登校拒否の生徒が本当に苦しんでいることを知った。それに対しては温かく見守りながら援助の手を差し伸べることが大切である。

では、援助するとしたらどのような方法があるのだろうか。今回、チェックリストによる潜在的登校拒否の予知から始まり、エゴグラム、バウムテスト、Y-G性格検査などを実施したが、十分に理解していないために苦勞。特にエゴグラム、バウムテストについては熟知していないと生徒に対してのアドバイスがむずかしい。しかし、いろいろな調査や心理テストを実施し体験することによって、私なりの援助の方法が確立できた。今後は計画的に時間をかけてじっくりやっていきたい。

##### 2 今後の課題

- (1) 登校拒否の予知・予防（援助）には根気強さが必要である。生徒の変容をみるためのデータ収集にしても2カ月とか半年後の期間が必要である。
- (2) いろいろな心理1タストの内容を熟知すること「援助の幅と深みが出てくる。
- (3) 総合的に判断するためにはソシオトリック・テスト、保護者のエゴグラム、Y-G性格検査、家族計画の実施なども必要であった。

##### 〈引用・参考文献・資料〉

『登校拒否の発見と援助・指導』	牧昌見／甲斐志郎 編	才能開発教育研究財団	1987
『登校拒否・各時期の症状とその対応』	砂田和孝	学事出版	1991
『クラス担任の登校拒否入門』	『月刊生徒指導』編集部編	学事出版	1989
『登校拒否の理解と指導』	神保伸一 編著	日本文化科学社	1990
『登校拒否児の治療と教育』	星野仁彦・熊代 永	日本文化科学社	1990
『交流分析とエゴグラム』	新里里春・他3共著	チーム医療	1991
『心理テストの進め方・読み方』	杉浦守邦	東山書房	1993
『登校拒否の理解と学校対処』	西君子	教育出版	1990
『生徒指導の指針』		沖縄県教育委員会	1993
『囑託医による登校拒否児童生徒の教育相談事業〈報告書〉』		浦添市教育委員会	1993